

春日部福音自由教会 2020年12月6日 11:00 中央会堂礼拝（同時配信）

聖書 新約聖書 ルカ 1章26節～38節

説教 「神にはできる」 小野信一師

おはようございます。待降節の第2主日です。4本のろうそくのうち2本に火が灯されています。

先々週の11月22日は、島先先生をオンラインでお迎えし、「神のご計画」「神のかたち」についてともに学ぶ機会がありました。「神のご計画の中に、大きな神さまのご計画の中に、あなたもいるんですよ。今もいるんですよ」と学んだのです。人間は「神のかたち」「神の代理人」として、地を治めるべく造られました。その使命は、人の過ちのゆえに歪んでしまいましたけれども、神さまは救いを用意し、回復を用意して下さって、今もその回復の途上です。やがて完成の時が来ます。神のご計画の中にいる人間であり、今ここにいる私たちなのだ、ということをおぼせていただきました。

今は待降節です。主イエス・キリストが、人間としてこの地上にお生まれになったことを覚え、記念するときです。そして私たちの心と生活に、イエス・キリストをお迎えする備えをするときです。今「イエス様がすでに来られた」ということを覚えて、降誕祭に向かって心を整え、生活を整えつつ、「やがて未来にもう一度来られる」ということを覚えて、待ち望み、今日も礼拝をささげています。

この宇宙と世界とそして命あるもの、人間を造り変え、回復するために、また救うため、ご自分と和解させるために、神さまが定められたご計画、そして起こされた行動、それが「神の御子をこの地上に送る」ということでした。三位一体の神ご自身が、神であるのに人間となってこの地上に来られる、ということでした。その神さまの大きな長い長い大きな救いのご計画が、今日も進んでいます。

I マリアへの語りかけ

今日のみことばはルカの福音書1章です。いわゆる受胎告知の場面と呼ばれます。このみことばは、マリアへの語りかけです。そして神さまからの、御使いを通しての宣言です。そしてマリアがどう応答したか、ということが書かれています。

まずはじめは、神さまの語りかけです。神の訪れ、神の使いが突然現れます。そして「おめでとう。あなたは選ばれている。あなたは神の大きなみ業、ご計画の一部を担うように定められています」と告げます。「あなたは選ばれている。おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます」。「インマヌエル」という言葉は「神が私たちとともに」という意味ですが、そのことを最初に告げられ、最初に味わったのはマリアでした。

それは素晴らしい知らせなのですが、それを聞いてマリアは戸惑いました。戸惑ったのも、もっともであろうと思います。29節に「マリアはこのことばにひどく戸惑って」と書いてあります。その戸惑うマリアに御使いは言います。「恐れるな」。「恐れるな」と、私たちが恐れるときに、神さまが「恐れるな」と言われます。人間は恐れる、恐れやすいことを神さまはご存知なので、御使いを遣わして「恐れるな」と言ってくださったのです。

そして約束があります。31節「見なさい」。「見よ」という言葉が今日のところに2回出てきます。「見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます」。これが約束です。そして「その名をイ

エスとつけなさい」という命令がその後について、さらにその命令の後に「その子は大いなる者となるだろう、いと高き方の子と呼ばれる」という約束が続きます。

マリアには「あなたは選ばれた人なんだ」と神さまの語りかけがありました。そして神さまがこれから成そうとしておられるみ業が宣言されました。「あなたに対して、神さまはご計画を持っています。あなたに対して、神さまがしようとされることがあります」と告げられました。でもそれだけでなく、「あなたは神さまのご計画の器となる。あなたが神の定められた子を産むのだ。あなたの体を神さまは必要としていて、あなたは神のみ業の一部となって用いられるのだ」という宣言でした。

そう告げられてマリアは戸惑いました。私たちもそうです。私たちにも神さまは告げられます。「あなたは選ばれている。わたしがあなたがたを選んだのだ。あなたがたはわたしの大きな計画の、わたしの大きな業の中にあるのだ」と神さまが言われる。そして単にその神の業の一部であるだけでなく、神のみ業の一部となって用いられるのだ、というのです。それを聞くときに、私たちもマリアが「ひどく戸惑った」と書いてあるように、戸惑います。

マリアの応答のひとつ目はこうでした。29節「この言葉にひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ」。理解できないのです。受け止めることができない、不思議なことが起こります。不思議なことが告げられます。ひどく戸惑います。そして恐れます。考え込んでいます。

マリアは御使いを通して与えられた約束、命令、またそれに続く約束を聞きますが、答えます。34節「どうしてそんなことがあり得るでしょう、どうしてそのようなことが起こるのでしょうか、起こり得るのでしょうか」。「ありえない！」。

神さまが言われることに対して、「ノーです！」。「ノー」と言えるわけが十分すぎるほどにあります。「あなたのみ業の一部を担うだなんて…」。マリアは戸惑って「無理です」と言ったわけです。私たちもそう言いたくなるでしょう。神さまが私たちに「わたしはあなたがたを選んだ。あなたがたを用いようとしてるんだ」と言われたときに、「どうしてそんなことができるのでしょうか、私など」と言って、「無理です、ノーです」と言いたくなる。

マリアは言いました。「私は小さな者です」。聖書には書いていませんけれど「私は少女です」と言ったかもしれません。マリアの年齢は聖書に書いていませんが、おそらく10代の少女であっただろうと思われれます。10代も後半というより半ばかもしれません。14、15、16才。「私は少女です。私は小さな者です」。ナザレという小さな町、特別な町でもない、そしておそらく特別な家でもない、特別な親の元に育ったわけでもない、普通の人、マリアでした。

そしてもう一つ「私は処女です」と言いたかったと思うのです。34節には「私は男の人を知りませんのに」と言ったと書いてあります。この「知る」という言葉は、聖書でいろんな意味で、深い意味で用いられることがあります。男女の間で知る、男女の関係を持つということを知る、という様に使うときがあります。「男女の関係を持ったことがありません。こんな私がどうして男の子を産むなどということがあり得るのでしょうか、ありえないことです。男の子を産むなど、ましてその子が大いなる者、いと高き方の子となるなどということはありません。無理です、出来ません！ノーで

す！」とマリアは答えようとしているようです。とまどいながら、恐れながら、「どうしてそんなことがあり得るのでしょうか」と尋ねます。

マリアもまた私たちも、神が突然訪れる、現れると戸惑います。恐れます。「おめでとう。あなたは選ばれています。神の大きなみ業の一部を担うように期待されているんですよ」と言われる。時には聖書を通して語られる。時には説教者を通して語られる。教会の友を通して語られる。家族や誰か小さな人、小さな命や、あるいは弱っている人を通して神さまが語られることがあるかもしれません。神さまはあなたに期待しておられる、という言葉が聞くとときに「無理でしょう、私には。無理です。だってこんな状況ですよ。私の置かれた状況は」と言いたくなることのあるのではないかと思います。十分すぎるほど“ノー”という理由があるわけです。

今こうやって礼拝に、この中央会堂に集まっている一人一人の皆さん、そして家に留まって家で礼拝をして、YouTube で同時配信で視聴しながら一緒に礼拝をささげている皆さん。今それぞれどんな状況に置かれているのでしょうか。いま顔が見える方もいますし、今こちらからは顔が見えない方も沢山いらっしゃいます。そしてこの3月、4月から、今に至るまでの中です、ね、「こんなことがありました」というふうにお話しくださって、聞かせていただいたこともありますし、またこちらからは見えていない、わかっていないこともいろいろあるだろうと思います。それぞれの皆さんの中に、いま教会の多くの方たち、何人もの方たち、いくつもの家族の中に、いろんなできごとが起こって、いろんな苦しい、困難があるということを感じています。神さまがあなたを選んで期待しておられると言われても「そんな、無理です」と言いたくなる。

私も「2020年度になったら」と3月には考えていました。「4月からこういうことをしていこう」と。例えば「拡大+aで将来のことを話し合っていきましょう、具体的に準備していきましょう」「幼稚園のためには（初めての試みですけども）寄付を募ることをしてみましよう」などと、「新しい年度やりましよう」と言っていたことがあった。でもほとんどそれがなかなかできないまま、ここまで来たのです。「こんな状況ですよ、私たちの置かれた状況は。神さま私たちに期待しても無理です」と言いたくなることのあるかもしれません。

マリアの「どうしてそのようなことが」という最初の応答に対して、御使いはさらに語ります。35節「聖霊があなたの上に臨むのだ。いと高き方の力があなたをおおい尽くすのだ」。そう言うのです。マリアが「私など無理です」と言いたい時に、神は「いやあなたなのだ」と言われます。そして「あなたの上に聖霊が臨む。あなたをいと高き方の力が覆い尽くすのだ」と言われるのです。そしてもう1度「見なさい」。御使いは言います。「見よ、あなたの親類のエリサベツ、あの不妊と言われていたあの女性、年を取ってから男の子を宿しているではないか。今はもう6ヶ月だ。それを見なさい」。そしてこう言われます。「神に不可能なことはない」。

神さまはマリアに言われました。「いや、あなたなのだ」と。「あるがままのあなたが用いられるのだ」と。そのように私たちにも言われます。「わたしが用いるのはあなたなのだ、あなたたちののだ」。そこには私たちが変えられていくことも含まれているでしょう。今あるままの私たちが、神

さまによって選ばれて、用いられて、そして神さまに造り変えられていくことによって、なお用いられていきます。そして御使いは言いました。「いや聖霊なのだ。人の業ではないのだ。聖霊が臨むのだ」と言われます。

Ⅱ 神の全能の宣言

神の全能がここで宣言されています。「神にとって不可能なことは何もありません」。

神の使いは、神の力、神の実力、神の底力、実行力を宣言します。【どんなことであれ、神にとってはできないなどということは決してないのだ。神には不可能はない。神にはどんなことでもできるのだ】と宣言します。神さまは全知であり全能です。どこにでもおられます。そして神は真実です。私たち人間が真実でない時にも、変わる事のない神は真実であられます。神にとって不可能なことは何もありません。マリアはこの宣言を聞きました。 私たちもこの宣言を聞きます。神さまがなさるのです。神さまが選ぶのです。神さまが造りあげ、造り変えるのです。神さまが赦しと哀れみで再生させるのです。

今日私たちは礼拝の中で聖餐式を行おうとしています。聖餐式は契約であり、主との契約を覚える時であり、また赦しの時です。赦しを覚える時でもあります。神の赦しと哀れみで再生されるのです。神さまがそれをさせます。私たちはただ信じれば良いのです。

神のあわれみと赦し。人間は不完全で、神さまがアダムに期待したことを、アダムは十分にはできませんでした。神さまがアブラハムを選んで、その子孫であるイスラエル民族に期待したこと、イスラエル民族はそれを十分に果たせませんでした。

しかし神は、再出発を与える方です。旧約のイスラエルの民は、王国は滅びました。しかしわずかに残った人たちがいました。捕囚になって捕らえられて行き、そして戻って来るように導かれた人たちがいました。その切り株から、切り倒された後の切り株から、残りの者から、ダビデの家系の中から、神は次のご計画を実行しはじめました。そのことが今ここで、告げられているのです。

「あなたは男の子を産む」。マリアは【当事者】となります。単に「神さまは救いを用意してますよ、それがあなたに訪れますよ、全人類に訪れますよ」という宣言を聞くだけでなく、「あなたは男の子を産みます」とマリアは聞きました。マリアは【当事者】となるのです。私たちもそうです。私たちが神のみ業の【当事者】となります。そのように選ばれ、呼ばれ、招かれています。

Ⅲ 神への応答―身を差し出す

さあ、マリアの応答です。38節「ご覧ください。ここに私がおります。私は主のはしためです」。「はしため」というのは「しもべ」という意味ですね。聖書ではしもべとか奴隷とか訳される言葉、女性のしもべです。「私は主のしもべです」とマリアは言いました。「あなたのおことばどおり、この身になりますように」。マリアは神さまに応答しました。最初の応答は「どうしてありえるのでしょうか？」という疑問、問いかけでしたけども、今度は「どうぞ私をご覧ください」と言って、「私はあなたのしもべです。この身にあなたのおことばがなりますように」と言いました。

応答するとは、身を差し出すことです。マリアは「ここにいる私をお使ってください。あなたのおことばどおりこの身になりますように」と、自分の身を差し出し、お任せしたのです。「あなたのお心のままに、使いたいようにどうぞしてください」と。「我が身はここにあります。主のおことばの通りに、この身に、この私の体になりますように」。

私たちも言いたいと思うのです。「今ここにいる私、この体、主よあなたのものです。お使いください。整えてください。お任せいたします」。マリアとともに我らも言いましょ。「私はあなたのものです。誰かのためにこの身を用いてください。神よ、あなたのため、あなたのご計画のために、この身を、ここにいるこの私のすべてを用いてください」。先が見えない今の時代です。先が見えないこの時、今あるこの身を、確かにある私のこの体を主にささげましょ。主にお任せしましょ。「ここにいる私を用いてください。私を整えて用いてください」。そう言わせていただきますましょ。

IV 最悪の時に語りつづけられる“約束”

最悪の時というのがあります。そして最悪の時、苦しい時、そして私たちが恐れる時、難しい状況の中で、神さまが働かれるのです。

マリアにとって、自分が神さまの期待に応えられるという条件は何もありませんでした。整っていませんでした。「私には無理です。私は少女です」。私たちもそう感じることもあるでしょう。「私たちには無理です。いま状況は良くありません。難しいです」。このコロナの感染症の中で、そう言わざるを得ない、と感じることが多くあります。非常に難しい。しかしその中で、最悪の時に神さまは約束を語る方なのだ、ということを感じさせられます。

今日交読文で、すでにとともに読みましたが、エレミヤ書 32 章 17 節で、「神、主よ、ご覧ください。あなたはたいなる力と、伸ばされた御腕をもって、天と地を造られました。あなたにとって不可能なことは一つもありません」と、エレミヤは祈っています。

この前のところで、エレミヤは親類からアナトテという故郷にある畑を買います。ゼデキヤ王の第 10 年、エルサレム南王国が滅びたのはゼデキヤ王の第 11 年ですので、滅亡の 1 年前です。次の年には国が滅び、敵国に占領されて、「ここは私の土地です、誰々さんの家の土地です」と言ってももう何の意味もなくなってしまうわけです。国自体が敵国に占領されるわけですから。でもその中でエレミヤは、親類の土地を買い戻して書類を作り、それを保存します。神さまがそう言われたのです。「なぜなら」と主は言われます。「再びこの地で、家、畑、ぶどう畑が買われるようになる」。1 年後にはもう敵に占領されてしまう土地です。まもなくそうになってしまう。しかしその滅びと裁きのその先に、苦しい時代、最悪の時代の先に、再び人が住み、再び人が結婚して喜び、再び畑ぶどうを植えて、収穫して喜ぶ、歌う、おどる、その時が来る、と神さまが語られたので、エレミヤはそれをしました。いま敵にもう包囲されている、食料がだんだんだんだん街の中になくなっていく、という時期だったであろうと思います。苦しい、最悪な時です。その時にエレミヤは「ああ、神、主よご覧ください、あなたは」と言って、神の全能を告白しました。今うまくいっているいい時代だから、「神さまあなたは全能の方です、だからあなたにはおできになります」と告白したのではなかったのです。

悪い時代、最悪の時代、難しい時代、苦しい時、恐れの際に、神が語り続けられる約束がありました。その時エレミヤは、神の全能を告白したのです。

今日のマリアのところもそうです。戸惑いの中で「神は恐れるな」と言われます。「神にできないことはないんだ」。最悪の状況の中、期待できない中、神は「わたしは全能の神だ」と言われます。

今この3月から12月の状況で、人間にできないことを神さまに期待したいと思います。人間にできそうなことであれば、神に期待する必要がないのです。人間には決してできないこと。でも、神にはできます。それをこそ神に期待します。どんなことを神がなさるのか、まるで見えません。見えない時にこそ、信じる。信仰を働かせるのです。

今教会の、神の家族の中に、色んなことが起こっています。思わぬことが起こり、苦しんでいる人がいます。何人も、いくつもの家族、戦っている人がいます。思わぬことに直面して戸惑って、葛藤している。想像してなかったことがいくつも起こっている状況だと、3月4月、6、7月そして9月10月から振り返って思います。コロナと関係があること、あるかもしれないし、ないのかもしれない。もともとあったことかもしれない。間接的に関係あるかもしれない、色々なことが起こります。

ひとつは家族に会えない人がいるってことですよね。今日もこの中に久しぶりに顔を見る方もいらっしゃるんですけども、一旦入院すると、あるいは施設に入居すると、家族に会えない、面会ができないというところが多いです。そういうことがいくつもありました。今も入院してる方がおられます。

学校に行けない人。対面授業がなくなった。大学はまだオンラインを続けている。中学や高校は授業が始まった。授業が始まったけど行きたくない。行けない。色んな事情で。理由は一つではないでしょう。会社に行けない人、行けなくなってしまう。元気がなくなってしまう。体や心が著しく疲れて、行けなくなってしまう。

あるいは会社がなくなる。ニュースなどでも聞きますよね。例えば、洋服を作る会社が倒産したっていうことがありました。レイクタウンのお店に前に行ったことがあったんですけど、数ヶ月ぶりに行ってみたら、その会社の服を売っているお店自体がなくなっていました。別のお店に変わってました。お店は無くなった。そういうことが、色々なところで起こっているだろうと思います。自分が働いていた場所がなくなってしまった。あのお店で働いていた人はどこにいるのだろうと思いましたけれど、もちろんまったくわかりません。これからどうなるのだろうか。

あるネットのニュースに、新聞の記事からでしたが、「半年後に自分は生きているだろうか」という見出しがありました。特にそれは医療の現場で働く医療者たちの叫びのようなものでした。患者さんだけでなく、医療の現場で働いている人たちが、「このままでは半年後、自分は生きているのだろうか」と思わざるを得ない、苦しい状況、叫びのようなものがある。そういう記事でした。

その中に「3割の人たちが燃え尽き症候群であるかもしれない」とありました。特にその医療の現場の人たちのことだと思いますが、3割の人は、もう頑張りすぎて疲れて、燃え尽きてしまう、バーンアウト、もう動けなくなるような状態。「3割ってリアルな数なんじゃないかな」と思いました。

日本にも、大きな教会、小さな教会、新しい教会、古い教会、いろんな教会があります。いろんな地方、色々な町、それぞれありますが、礼拝を続けるだけで精一杯で、疲れている牧師が多いだろうと思います。礼拝さえ行えなくなってしまった、というところもあるわけです。

私たちの教会は集まるのを一旦止めましたが、同時配信をすることによって、なんとか同時に一緒に集まって礼拝するということが守られてきました。でも、それもできなかった教会もあります。頑張っているところでも、配信の奉仕、作業も、牧師やその家族だけでやっている教会もあるわけです。大変だと思います。そういう意味では、自分は配信の実際は自分はしてませんので、してくれてる人がいるので助かっていると思います。頑張ってくれている若い人たちのおかげだな、と思います。そういうことで、カメラやマイクやいろいろ機械があって、それをしてくれる人がいて、YouTubeで「家で礼拝」する人にも届けることができている。感謝です。

それでも疲れたなって思います。礼拝堂に来られなくても共に礼拝する方法を、と考えると、四つの方法を結果的に用意することになりました。そのほか Web ページ、インターネットのホームページの編集をして、それを毎週更新します。礼拝堂に来られなくても週報が見られるようにしています。

会堂が分かれて礼拝していても、大事な情報はみんなに同じようにちゃんと伝わるようにしなければと思って、懸命に毎週やって、それでもミスが起こるわけです。色々なミスが起こって、ああ届けられなかった、伝えられなかったということがあり得るのです。「届けられない」ということを私は恐れることがあります。ほかにも色々なことを恐れるんですね。まだ起こってないこと、これから起こるかもしれないことを考えて、恐れてしまう。それらが起こった時に、何をどうするかちゃんと用意できているか、「できている」という自信がなくて恐れたりする。不安になります。

また、心配しなくていいこともたくさん心配しますね。今この礼拝堂は、礼拝の前と後に、どなたかがアルコールなどで拭いたり消毒したりしてくれています。いま接触感染のリスクがそれそんなに高くない、と聞くようになったので、モノの消毒は減らしてもいいのかなと考えているところです。後から「それはそこまで心配しなくてよい」ということが分かることはあるんですけど、その時は未来のことは分からないので、特に未知のウィルスであったので、最大限に心配をする。自分は大丈夫かなと思って、自分より体の弱い人、肺の弱い人、心臓に疾患のある人を心配します。キリがないけれど心配する。そうして疲れていく。そして目に見えないところにあるものが、見えるところに浮かび上がってくる。そんな色々な危機が起こります。

世界も心配だし、自分の人生も心配、あるいは危機を迎える、あるいは先が見えない、恐れる、もうだめかもしれないと思う中で、危機をいま通ってる人たちがいます。何家族も簡単には言えないことを抱えて耐えている人たちがいます。そして私たちが知らないところで、何かを抱えて苦しんでる人がいるのかもしれないと思います。

いま健康でいられている人は、弱っている人のために祈りましょう。できることをしましょう。人が人のために何が難しい時代です。でもやってみましょう。神さまが一人一人を造って、あなたが今いるそこに置いて、あらたに何かを期待しておられます。何もできない時、人の力では無

理だという時、その時神に期待します。信じられそうな時に信じるのではなくて、大丈夫そうではない時に、その時こそ「神には不可能なことはひとつもありません」と告白します。全身全霊を込めて、自分の全存在を賭けて、「神にはおできになります」と告白しましょう。今がその時かもしれません。

「神よ、こんな私たちをご覧ください、私はここにあります。ここにいるこの私を見てください。私が立っている時、歩いている時、立っていると思っている時、そして私が道に倒れる時。主よご覧ください、そばに来てください」と祈りましょう。

マリアも私たちも、信じられそうな時ではなくて、信じられそうもない時に信じるのが求められています。そのなかで、神さまは「わたしは全能の神だ。わたしはエル・シャダイ、全能の神だ」と言われます。色々ある、それぞれに。そんな中、誰かのために生きようと、なんとか生きようとしています。不完全な人間が、不完全な人間のために、何とか支えになろうと、生き続けようとしています。それを神さまは見ておられます。

V 「信じることは難しい」ルター

「信じることは難しい」とあのルターも言いました。「処女降誕を信じるよりもっと難しいのは“神が人となりたもうたこと”だ」。そして「マリアが、ほかならぬ自分が、“神の母たるべく選ばれたというお告げ”をこのおとめが信じたということは、更に驚くべきことだ」とも言ったそうです。

信じる幸いがあります。見えない時に信じるのです。45 節に「主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです」とあります。マリアは「あなたのおことばどおり、この身になりますように」と言いました。戸惑いの中、恐れの中、信仰を働かせました。待ち望みました。そして身を差し出しました。「ご覧ください、私はここにあります。今ここにいるこの私を見てください。今ここにいるこの私を。あなたのものです。よいようにお使ってください」と差し出しました。神が言われたことを信じた人は幸いです。「主によって語られたことは必ず実現する」と信じた人は幸いです。

お祈りをささげましょう。

天の父なる神さま、今日、12月の月の初めの主の日、ともにあなたの前に出て、この中央会堂において、三つの会堂において、また同時配信を通して、それぞれの家、今いる場所において、あなたの前に出て、ともに礼拝をささげております。

あなたは生きておられます。あなたは真実です。あなたにはおできになります。「無理だ、この状況ではできない、私には無理だ」。そう思い、そう言いたくなることがたくさんあるなか、神さま私たちとともにいてください。今あなたの前にいる私たちをご覧ください。一人一人をご覧ください。支えてください。力を与えてください。誰かを支えることができるように、誰かを受け入れ、また支えることができるように、互いに愛し、互いに赦すことができるように、神さま助けてください。そしてあなたのみわざをなしてくださいますように。

私たちはここにあります。あなたのおことばどおり、私たちをお用いください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン